

「置かれた場所で咲きなさい」

(渡辺 和子〔ノートルダム清心学園理事長〕著 幻冬舎)

この著書は、NHK「おはよう日本」でも紹介され、2012年年間ベストセラーの上位にランクインされていることもありご存じの方も多いたと思いますが、新年度を迎えて新たなスタートを切られておられる方も多いかと思ひ、また自分自身も今置かれている立場を再確認するためにも読んでみたい本であったので、ご紹介いたします。

著者は、30歳間際で修道院に入ることを決意し、その後、修道会の命令で修練のためアメリカに行き、修練終了後、再び命令で学位を取り、35歳で日本に戻りました。次の命令で岡山のノートルダム清心女子大学に派遣され、その翌年、2代目学長の急逝を受けて思いがけない3代目の学長に任命されました。(36歳)著書は、その頃を振り返りながら、出会った方々(宣教師、教え子...)や家族からの教えや術などを綴ったものです。

30代半ばで、思いがけず岡山に派遣され、翌年に学長に任命されて、心が乱れることも多かった時、一人の宣教師が短い英詩を手渡してくれたのが

Bloom where God has planted you.

(神が植えたところで咲きなさい)

「咲くということは、仕方がないと諦めるのではなく、笑顔で生き、周囲の人々も幸せにすることなのです」と続いた詩は、「置かれたところこそが、今のあなたの居場所なのです」と告げるもののようなのでした。置かれたところで自分らしく生きていけば、必ず「見守っていてくださる方がいる」という安心感が、波立つ心を鎮めてくれるのです。・・・といったようにこの本が読む人の心に少しでも和らぎをもたらすことを願って書かれております。

本書のなかに出てくるキーワード

- 人はどんな境遇でも輝ける・・・どうしても咲けない時は、下へ下へと根をのばす。つらい日々も、笑える日につながっているのです。
- 苦しい峠でも必ず、下り坂になる・・・人はどんな険しい峠でも越える力を持っている。そして、苦しさを乗り越えた人ほど強くなれる。
- きれいさはお金で買えるが、心の美しさは買えない・・・心の美しさは、自分の心との戦いによってのみ得られる。
- 子どもは親や教師の「いう通り」にならないが、「する通り」になる・・・こどもに何かを伝えるのに言葉はいらない。ただ、誠実に努力して生きていくだけでいい。
- いい出会いにするためには、自分が苦勞をして出会いを育てなければならぬ・・・出会っただけでは信頼関係を結べない。「このご縁を大事にしよう」という気持ちを育てていこう。
- 時間の使い方は、そのままのちのちの使い方になる・・・待つことで、心にゆとりができると気付いた時、生きている「現在(いま)」は、より充実したものになる。
- 倒れても立ち上がり、歩き続ける・・・時には立ち止まって休んでもいい。再び歩きだせるかが目標達成の分かれ道。
- 信頼は98%。あとの2%は相手が間違った時の許しのために取っておく。・・・この世に完璧な人間などいない。心に2%のゆとりがあれば、相手の間違いを許すことができる。

※この他にも出てくるキーワードがたくさんあります。私もこの本を読み終えてみて、今まで置かれた環境や出会いなどを振り返る良い機会になり、あらためて「生かされている、支えられている」自分がいることに気付かされました。「素直な心、謙虚な心、反省の心、奉仕の心、そして感謝の心」をもって、今年も我が須賀川高校野球部の選手達と共に精進してまいります。